第1章 人口動態

1 平成 27 年の概況

人口動態統計の概況を第1.1表に示す。前年に比べ、出生、死亡、死産、婚姻、離婚は全て増加した。 出生は、45,235人で前年より32人増加し、人口千対の率は9.0(前年9.0)となった。

死亡は50,259人で前年より942人増加し、率は9.9(前年9.8)となった。

出生数と死亡数の差である**自然増減数**は-5,024人で、前年の-4,114人より910人減少し、率は-1.0で前年に続き、マイナスとなった。

死産は1,164 胎で前年より9 胎増加し、出産(出生+死産)千対の率は25.1 (前年24.9)となった。 **婚姻**は27,566 組で前年より207 組増加し、率は5.5 (前年5.4)となった。

離婚は10,063組で前年より82組増加し、率は1.99(前年1.98)となった。

なお、福岡県の出生率、死産率、婚姻率及び離婚率は全国を上回り、死亡率は全国を下回った。

福 出 県 全 玉 平成27年 比 項 年 間 発 生 数 生. 発 生 比 率 目 発 率 平均発生間隔 平成27年 平成26年 対前年差 平成27年 平成26年 時:分'秒" 平成27年 平成26年 出 45, 235 45, 203 9.0 9.0 00:11'37" 32 8.0 8.0 死 亡 00:10'27" 50, 259 49, 317 942 9.9 9.8 10.3 10.1 乳 児 死 亡 0 88:29'05" 99 99 2.2 2.2 1.9 2.1 新生児死亡 194:40'00" 45 1.0 1.0 0.9 0.9 44 1 然 自 増 減 -5,024-4,114-910 -1.0-0.8-2.3-2.1死 産 07:31'33" 1, 164 1, 155 9 25. 1 24.9 22.0 22.9 然 死 産 496 462 10.7 10.0 17:39'41" 10.6 自 34 10.6 人 工 死 産 668 693 -2514.4 14.9 13:06' 50" 12.3 11 4 周 産 期 死 亡 177 170 7 3.9 3.7 49:29'29" 3.7 3.7 妊娠満22週以後の死産 142 133 9 3. 1 2.9 61:41'25" 3.0 3.0 早期新生児死亡 250:17'09" 35 37 -2 0.8 0.8 0.7 0.7 婚 姻 27, 566 207 00:19'04" 27, 359 5.5 5.4 5. 1 5.1

第1.1表 人口動態統計の概況

82

1.99

1.98

00:52'14"

1.81

1.77

9,981

10,063

注:1) 出生・死亡・自然増減・婚姻・離婚率は人口千対、乳児・新生児・早期新生児死亡率は出生千対、死産率は出産(出生+死産) 千対、周産期死亡・妊娠満22週以後の死産率は出産(出生+妊娠満22週以後の死産)千対である。

²⁾ 人口は「平成27年国勢調査」(総務省)を使用(全国 125,319,299人、福岡県 5,053,500人)。

2 出 生

(1) 出生の動向

出生数、出生率及び合計特殊出生率の推移を第 2.1 表及び図 2.1 に示す。平成 27 年の本県の出生数は 45,235 人、出生率は 9.0 で、出生数は前年をわずかに上回った。また、合計特殊出生率は、昭和 35 年以降全国と同程度または全国を下回って推移していたが、平成 22 年からは全国を上回り、平成 27 年は全国の 1.45 に対し 1.52 であった。

	福	岡	県	全		国
年 次	出生数	出生率	合計特殊 出 生 率	出生数	出生率	合計特殊 出 生 率
昭和22年	108, 237	34. 1	• • •	2, 678, 792	34. 3	4.54
" 25年	109, 156	30.9		2, 337, 507	28. 1	3.65
" 30年	76, 427	19.8	• • •	1,730,692	19. 4	2. 37
" 35年	67, 318	16.8	1. 92	1,606,041	17. 2	2.00
" 40年	68,854	17. 4	2.00	1,823,697	18.6	2. 14
" 45年	69, 632	17. 4	1. 95	1, 934, 239	18.8	2. 13
" 50年	71,059	16. 7	1.83	1,901,440	17. 1	1. 91
" 55年	64, 404	14. 2	1.74	1, 576, 889	13.6	1. 75
" 60年	58,837	12.4	1.75	1, 431, 577	11.9	1. 76
平成 2年	48, 164	10. 1	1. 52	1, 221, 585	10.0	1.54
" 7年	46, 849	9.6	1.42	1, 187, 064	9. 6	1. 42
″ 12年	47, 290	9. 5	1.36	1, 190, 547	9. 5	1. 36
〃 17年	43, 421	8. 7	1. 26	1,062,530	8.4	1. 26
″ 18年	45, 304	9.0	1.30	1,092,674	8. 7	1. 32
〃 19年	46, 393	9. 2	1.34	1,089,818	8.6	1.34
" 20年	46, 695	9.3	1. 37	1,091,156	8. 7	1. 37
〃 21年	46,084	9. 2	1. 37	1,070,035	8. 5	1. 37
』 22年	46,818	9.3	1.44	1,071,304	8.5	1. 39
" 23年	46, 220	9. 2	1.42	1,050,806	8.3	1. 39
〃 24年	45, 815	9. 1	1.43	1,037,231	8. 2	1.41
" 25年	45, 897	9. 1	1.45	1,029,816	8. 2	1. 43
〃 26年	45, 203	9. 0	1.46	1,003,539	8. 0	1.42
〃 27年	45, 235	9.0	1. 52	1,005,677	8.0	1.45

第2.1表 出生数・出生率(人口千対)・合計特殊出生率の推移

²⁾ 合計特殊出生率は15歳から49歳までの女性の年齢別出生率を合計したもので、1人の女性が仮にその年次の年齢別出生率で一生の間に生むとした時の子ども数を表す。国勢調査年次は日本人人口、他の年次は推計人口を用いた。

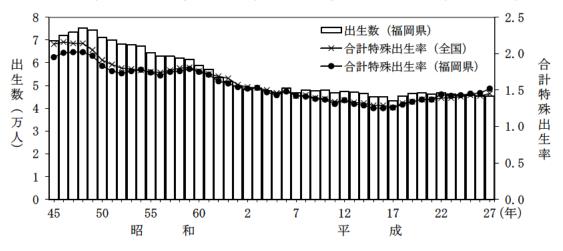


図 2.1 出生数・合計特殊出生率の推移

注:1) 昭和48年以降の全国の数値は沖縄県を含む。

平成27年の本県の市区町村別出生率を第2.2表及び図2.2に示す。最も出生率が高かったのは粕屋町の14.1だった(平成11年以降連続1位)。次いで新宮町の13.7、博多区の11.8、大野城市の11.6の順だった。福岡市及びその近郊で高い傾向がみられる。

第2.2表 市区町村別にみた出生率(人口千対)(平成27年・福岡県)

市	区町村	名	出生率	市	区町村	名	出生率	市	区町村	† 名	出生率	市	区町村	· 名	出生率
粕	屋	町	14. 1	大	任	町	9.5	宮	若	市	8.5	岡	垣	町	7.3
新	宮	町	13.7	早	良	区	9.3	筑	前	町	8.5	八	女	市	7.2
博	多	\overline{X}	11.8	春	日	市	9.2	桂	Ш	町	8.3	芦	屋	町	7.1
大	野 城	市	11.6	筑	後	市	9.2	う	きは	市	8.2	築	上	町	7.1
篠	栗	町	10.9	宗	像	市	9.1	田	Ш	市	8.2	香	春	町	6.9
大	刀 洗	町	10.8	小	倉 南	区	9.1	直	方	市	8.2	大	牟 田	市	6.8
西		\overline{X}	10.6	水	巻	町	9.1	城	南	区	8.2	豊	前	市	6.8
那	珂川	町	10.6	八	幡 西	区	9.0	戸	畑	区	8.0	中	間	市	6.7
広	Ш	町	10.6	行	橋	市	8.9	赤		村	8.0	八	幡 東	区	6.6
志	免	町	10.4	筑	紫 野	市	8.8	若	松	区	7.7	大	Ш	市	6.5
東		区	10.1	飯	塚	市	8.7	糸	島	市	7.6	添	田	町	6.5
太	宰府	市	10.0	古	賀	市	8.7	朝	倉	市	7.5	門	司	区	6.4
久	留 米	市	9.9	小	倉 北	区	8.7	Ш	崎	町	7.5	嘉	麻	市	6.3
南		区	9.7	大	木	町	8.6	福	智	町	7.5	小	竹	町	6.3
須	恵	町	9.6	吉	富	町	8.6	上	毛	町	7.4	み	や ま	市	6.0
苅	田	町	9.5	宇	美	町	8.6	柳	Ш	市	7.4	鞍	手	町	5.4
中	央	\overline{X}	9.5	久	Щ	町	8.6	遠	賀	町	7.4	み	こ 今	町	5.2
福	津	市	9.5	糸	田	町	8.6	小	郡	市	7.3	東	峰	村	4.1

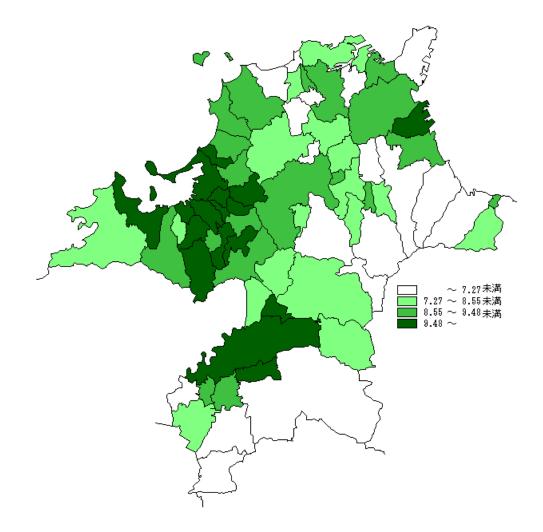


図 2.2 市区町村別にみた出生率(人口千対)(平成 27年・福岡県)

(2) 人口の自然増減の状況

人口の自然増減の推移を第 2.3 表及び図 2.3 に示す。自然増減数及び自然増減率は近年減少傾向を示している。出生数は、平成 17 年まで増減を繰り返しながら全体としては減少傾向にあったが、平成 18 年に増加し、それ以降微増微減はあるがほぼ横ばいである。死亡数は、昭和 57 年以降、増減はあるものの徐々に増加しており、自然増減数は減少傾向を示し、平成 22 年からは出生数が死亡数を下回っている。なお、自然増減率は、平成 16 年以降は全国よりも上回って推移している。

第2.3表 自然増減数・自然増減率(人口千対)の推移

年次	自然増減数	自然地	曽減率	年 次	自然増減数	自然地	曽減率
十 八	福岡県	福岡県	全 国	+ &	福岡県	福岡県	全 国
昭和22年	60, 155	18. 9	19.7	〃 17年	746	0.1	-0.2
〃 25年	72, 282	20.5	17. 2	〃 18年	2,034	0.4	0. 1
〃 30年	47, 349	12.3	11.6	〃 19年	2, 474	0.5	-0.1
〃 35年	38, 548	9.6	9.6	〃 20年	1, 561	0.3	-0.4
〃 40年	40, 730	10.3	11.4	〃 21年	1, 205	0.2	-0.6
〃 45年	41, 576	10. 4	11.8	〃 22年	-178	-0.0	-1.0
〃 50年	43, 483	10. 1	10.8	〃 23年	-1,892	-0.4	-1.6
〃 55年	34, 887	7. 6	7.3	〃 24年	-3, 142	-0.6	-1.7
〃 60年	27, 949	5. 9	5.6	〃 25年	-3, 559	-0.7	-1.9
平成 2年	14, 569	3. 0	3.3	〃 26年	-4, 114	-0.8	-2.1
ル 7年	9, 691	2.0	2. 1	〃 27年	-5, 024	-1.0	-2.3
〃 12年	8, 785	1.8	1.8				

注:昭和48年以降の全国の数値は沖縄県を含む。

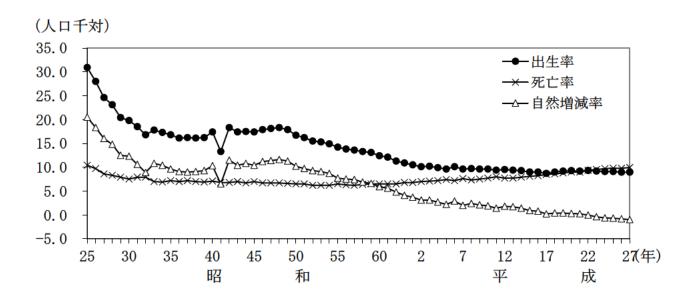


図 2.3 出生率・死亡率・自然増減率の推移(福岡県)

(3) 出生順位別にみた出生数の状況

出生順位別にみた出生数・百分率の推移を第 2.4 表及び図 2.4 に示す。平成 27 年の本県の出生数 は 45, 235 人だった。出生順位の構成割合をみると、最も多かったのは第 1 子の 20, 393 人 (45.1%) だった。次いで第 2 子の 16,029 人 (35.4%) 、第 3 子の 6,666 人 (14.7%) 、第 4 子以上の 2,147 人 (4.7%) の順だった。

第2.4表 出生順位別にみた出生数・百分率の推移(福岡県)

年	次	総数	第1	子	第 2	子	第 3	子	第4子	以上	不詳
_ +-	仈	出生数	出生数	百分率	出生数	百分率	出生数	百分率	出生数	百分率	出生数
昭和	135年	67, 318	29, 595	44.0	22,073	32.8	9, 549	14. 2	6, 101	9. 1	0
]]	40年	68, 854	31,864	46.3	26,079	37.9	8, 187	11.9	2,722	4.0	2
]]	45年	69, 632	31, 347	45.0	27, 144	39.0	8,980	12.9	2, 161	3. 1	0
]]	50年	71,059	32, 565	45.8	28, 344	39.9	8, 401	11.8	1,749	2.5	0
]]	55年	64, 404	27,032	42.0	25, 664	39.8	9,901	15.4	1,807	2.8	0
]]	60年	58, 837	23,855	40.5	22,899	38.9	10,029	17.0	2,054	3.5	0
平成	え 2年	48, 164	20, 286	42.1	17,665	36. 7	8, 338	17.3	1,875	3.9	0
]]	7年	46, 849	21,688	46.3	16, 705	35. 7	6,713	14.3	1,743	3.7	0
]]	12年	47, 290	22,851	48.3	16, 982	35.9	6,042	12.8	1,415	3.0	0
]]	17年	43, 421	20,635	47.5	16,032	36.9	5, 328	12.3	1,426	3.3	0
]]	18年	45, 304	21, 301	47.0	16, 504	36.4	5,912	13.0	1,587	3.5	0
]]	19年	46, 393	21,695	46.8	16,848	36.3	6, 303	13.6	1,547	3.3	0
]]	20年	46, 695	21,533	46. 1	16, 931	36.3	6, 536	14.0	1,695	3.6	0
]]	21年	46,084	21,546	46.8	16, 456	35. 7	6, 392	13.9	1,690	3.7	0
]]	22年	46,818	21, 343	45.6	16, 967	36. 2	6, 593	14. 1	1,915	4.1	0
]]	23年	46, 220	20,819	45.0	16, 477	35.6	6,843	14.8	2,081	4.5	0
]]	24年	45,815	20, 554	44.9	16, 483	36.0	6, 755	14.7	2,023	4.4	0
"	25年	45, 897	20, 461	44.6	16, 573	36. 1	6, 753	14.7	2, 110	4.6	0
"	26年	45, 203	20, 425	45.2	16, 160	35.7	6, 502	14.4	2, 116	4.7	0
IJ	27年	45, 235	20, 393	45. 1	16,029	35.4	6,666	14.7	2, 147	4.7	0

	第1子		第2子	第3子	第4子以上
昭和40年	46.3		37.9	1	1.9 4.0
昭和45年	45.0		39.0	[1	1.9 4.0 2.9 3.1
昭和50年	45.8		39.9		11.8 2.5
昭和60年	40.5		38. 9	17.	0 3. 5
平成 2年	42.1		36. 7	17.	3 3.9
平成 7年	46. 3		35. 7	14	3. 7
平成12年	48.3		35. 9	1	2.8 3.0
平成17年	47. 5		36.9	1	2. 3 3. 3
平成18年	47.0		36. 4	13	3. 5
平成19年	46.8		36. 3	13	3. 3
平成20年	46. 1		36. 3	14	3. 6
平成21年	46.8		35. 7	13	3. 7
平成22年	45.6		36.2	14.	. 1 4. 1
平成23年	45.0		35. 6	14.	1. 0
平成24年	44. 9		36.0	14.	7 4. 4
平成25年	44. 6		36. 1	14.	
平成26年	45. 2		35. 7	14.	
平成27年	45. 1		35. 4	14.	7 4. 7
0	20%	40%	60%	80%	100%

図 2.4 出生順位別にみた出生割合の推移(福岡県)

(4) 母の年齢階級別にみた出生状況

母の年齢階級別にみた出生数・百分率の推移を第 2.5 表及び図 2.5 に示す。平成 27 年の本県の状況をみると、最も多かったのは 30~34 歳の 16, 252 人 (35.9%) だった。次いで 25~29 歳の 11, 875 人 (26.3%)、35~39 歳の 9, 857 人 (21.8%)、20~24 歳の 4, 420 人 (9.8%)、40 歳以上の 2, 102 人 (4.6%)、19 歳以下の 729 人 (1.6%)の順だった。近年 35~39 歳及び 40 歳以上の割合が増加し、20 代の減少が続いている。

<i>F</i> -	VL.	総数	19歳.	以下	20~2	4歳	25~2	29歳	30~3	34歳	35~	39歳	40歳	以上	不詳
年	次	出生数							出生数						
昭和		67, 318	1, 163	1.7	19, 261	28.6	31,002	46.1	12, 190	18. 1	3, 136	4.7	566	0.8	0
"	40年	68,854	753	1.1	17,893	26.0	32,658	47.4	14, 284	20.7	2,849	4. 1	417	0.6	0
"		69,632	764	1.1	17,720	25.4	34,021	48.9	13,500	19.4	3,222	4.6	399	0.6	6
"		71,059	689	1.0	17,777	25.0	37,900	53.3	11,866	16.7	2,470	3.5	357	0.5	0
"		64, 404	764	1.2	11,668	18.1	32, 790	50.9	16, 471	25.6	2,438	3.8	273	0.4	0
"	60年	58, 837	885	1.5	9,713	16.5	27, 383	46.5	16, 282	27.7	4, 189	7. 1	384	0.7	1
平成		48, 164	783	1.6	7, 445	15.5	20, 469	42.5	14,719	30.6	4, 150	8.6	598	1.2	0
"		46,849	839	1.8	7, 956	17.0	18, 443	39.4	14,566	31. 1	4, 431	9. 5	614	1.3	0
"		47, 290	972	2.1	7,052	14.9	18, 437	39.0	15,043	31.8	5, 148	10.9	637	1.3	1
"		43, 421	803	1.8	5, 775	13.3	14, 239	32.8	15,899	36.6	5,890	13.6	815	1.9	0
"		45, 304	787	1.7	6,001	13.2	14, 316	31.6	16, 543	36. 5	6,832	15. 1	825	1.8	0
"	19年	46, 393	766	1.7	5,970	12.9	14, 368	31.0	16,847	36. 3	7,442	16.0	1,000	2.2	0
"		46,695	816	1.7	5,895	12.6	14,051	30.1	16,906	36. 2	7,908	16.9	1, 119	2.4	0
"		46,084	820	1.8	5,726	12.4	13,677	29.7	16, 290	35. 3	8, 291	18.0	1,280	2.8	0
"		46,818	748	1.6	5,340	11.4	13,919	29.7	16, 489	35. 2	8,877	19.0	1,445	3. 1	0
"		46, 220	694	1.5	5, 157	11.2	13,614	29.5	16, 320	35. 3	8,965	19.4	1,470	3.2	0
"		45, 815	731	1.6	4,736	10.3	13, 459	29.4	16,035	35.0	9, 140	19.9	1,714	3.7	0
"	25年	45, 897	737	1.6	4,548	9.9	13,039	28.4	16, 148	35. 2	9,607	20.9	1,818	4.0	0
"	26年	45, 203	798	1.8	4,438	9.8	12,389	27.4	15, 945	35. 3	9,578	21. 2	2,055	4.5	0
11	27年	45, 235	729	1.6	4,420	9.8	11,875	26. 3	16, 252	35. 9	9, 857	21.8	2, 102	4.6	0

第2.5表 母の年齢階級別にみた出生数・百分率の推移(福岡県)

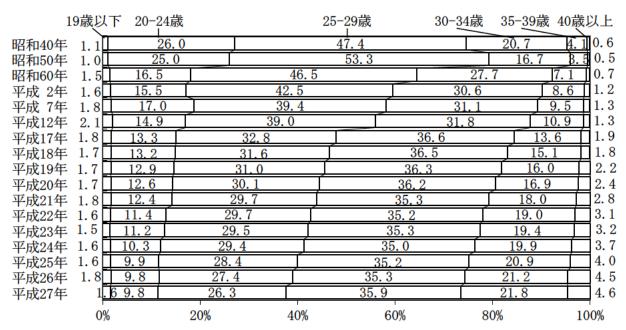


図 2.5 母の年齢階級別にみた出生割合の推移(福岡県)

(5) 出生の場所

出生場所別にみた出生数・百分率の推移を第 2.6 表及び図 2.6 に示す。平成 27 年の本県の状況をみると、最も多かったのは診療所の 30,237 人 (66.8%) だった。次いで病院の 14,640 人 (32.4%)、助産所の 227 人 (0.5%)、自宅の 55 人 (0.1%)の順だった。平成 18 年以降病院での出生割合が増加し、診療所での出生割合は減少しており、平成 23 年にはその傾向に変化が見られたものの、平成 2 4 年以降は再び病院での出生割合が増加傾向にある。

年	次	総数	病	完	診療	所	助產	至所	自驾	宅	その)他
#	伙	出生数	出生数	百分率	出生数	百分率	出生数	百分率	出生数	百分率	出生数	百分率
昭和:	35年	67, 318	13, 128	19.5	11,573	17. 2	5, 333	7.9	30, 789	45. 7	6, 495	9.6
]] 4	40年	68,854	16,672	24. 2	31,028	45. 1	9,553	13.9	9, 543	13. 9	2,058	3.0
JJ 4	45年	69,632	18,838	27. 1	39,966	57.4	8, 489	12.2	1,905	2.7	434	0.6
JJ 4	46年	71,960	20, 188	28. 1	41,945	58.3	7,986	11.1	1, 471	2.0	370	0.5
JJ 4	47年	73, 402	21, 755	29.6	42,505	57.9	7, 785	10.6	1,082	1.5	275	0.4
	48年	75,097	22, 100	29.4	44, 762	59.6	7, 202	9.6	795	1.1	238	0.3
]] 4	49年	74, 330	22, 428	30. 2	44,762	60.2	6, 330	8.5	628	0.8	182	0.2
"	50年	71,059	22, 165	31. 2	42,689	60.1	5, 516	7.8	511	0.7	178	0.3
"	55年	64, 404	22, 134	34. 4	39, 233	60.9	2,803	4.4	147	0.2	87	0.1
"	60年	58,837	24, 446	41.5	32,863	55.9	1,398	2.4	100	0.2	30	0.1
平成	2年	48, 164	17, 976	37. 3	29,633	61.5	509	1.1	38	0.1	8	0.0
"	7年	46,849	16,612	35. 5	29,697	63.4	477	1.0	52	0.1	11	0.0
"	12年	47, 290	15, 989	33.8	30,903	65.3	335	0.7	53	0.1	10	0.0
"	17年	43, 421	12,698	29. 2	30, 373	70.0	263	0.6	68	0.2	19	0.0
"	18年	45, 304	13,087	28.9	31,846	70.3	302	0.7	55	0.1	14	0.0
	19年	46, 393	14,083	30.4	31,980	68.9	241	0.5	78	0.2	11	0.0
JJ S	20年	46,695	14, 512	31.1	31,850	68.2	249	0.5	71	0.2	13	0.0
JJ S	21年	46,084	14, 401	31.2	31, 366	68. 1	230	0.5	79	0.2	8	0.0
JJ S	22年	46,818	14,711	31.4	31, 751	67.8	251	0.5	89	0.2	16	0.0
JJ 2	23年	46, 220	14,083	30.5	31, 786	68.8	264	0.6	51	0.1	36	0.1
"	24年	45,815	14, 418	31.5	30, 987	67.6	275	0.6	86	0.2	49	0.1
JJ S	25年	45,897	14, 337	31. 2	31, 206	68.0	223	0.5	57	0.1	74	0.2
JJ 2	26年	45, 203	14,828	32.8	30,055	66. 5	206	0.5	69	0.2	45	0.1
JJ S	27年	45, 235	14,640	32. 4	30, 237	66.8	227	0.5	55	0.1	76	0.2

第2.6表 出生場所別にみた出生数・百分率の推移(福岡県)

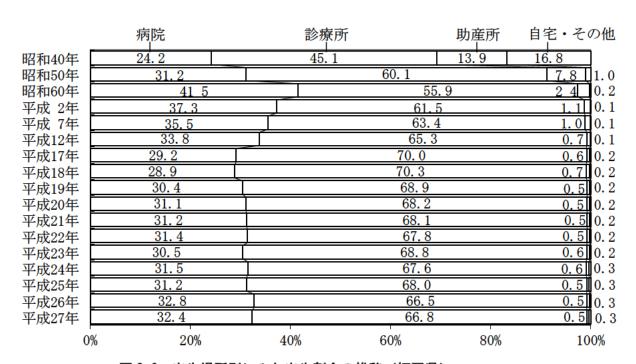


図 2.6 出生場所別にみた出生割合の推移(福岡県)

(6) 低体重児出生数

出生数に対する低体重児の構成割合の推移を第2.7表及び図2.7に示す。低体重児の構成割合は昭和50年代を底として漸増していたが、近年はほぼ横ばいで、平成27年の本県の低体重児出生数は4,484人、全出生数に対する低体重児の構成割合は9.9%だった。

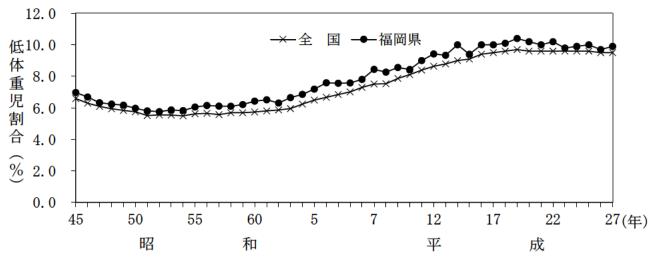
全国と比べると本県の低体重児出生割合は常に上回って推移している。

年 次	低体重児出生数	低体重児出	出生割合(%)
4 伙	(福岡県)	福岡県	全 国
昭和35年	5, 892	8.8	_
〃 40年	5, 628	8. 2	_
〃 45年	4, 857	7.0	6.6
〃 50年	4, 249	6. 0	5.8
〃 55年	3, 894	6. 1	5.6
〃 60年	3, 783	6. 4	5. 7
平成 2年	3, 465	7. 2	6.5
ル 7年	3, 952	8. 4	7.5
〃 12年	4, 453	9. 4	8.6
〃 17年	4, 354	10.0	9.5
〃 18年	4, 567	10. 1	9.6
〃 19年	4, 838	10. 4	9. 7
〃 20年	4, 753	10. 2	9.6
〃 21年	4, 615	10.0	9.6
〃 22年	4, 776	10. 2	9.6
〃 23年	4, 541	9.8	9.6
〃 24年	4, 521	9. 9	9. 6
〃 25年	4,570	10.0	9.6
〃 26年		9. 7	9. 5
〃 27年		9.9	9. 5

第2.7表 低体重児出生数・割合の推移

注:1) 昭和48年以降の全国の数値は沖縄県を含む。

2) 平成7年からの低体重児は2,500g未満の出生数である。それ 以前は2,500g以下の出生数である。



注:平成6年までは2500g以下の低体重児割合、平成7年からは2500g未満の低体重児割合である。

図 2.7 出生数に対する低体重児の構成割合の推移

平成 27 年の本県の保健所管内別低体重児割合を図 2.8 に示す。最も低体重児割合が低かったのは京築の 8.15%だった。次いで糸島の 8.47%、筑紫の 9.03%、東区の 9.06%、北筑後の 9.12%の順だった。

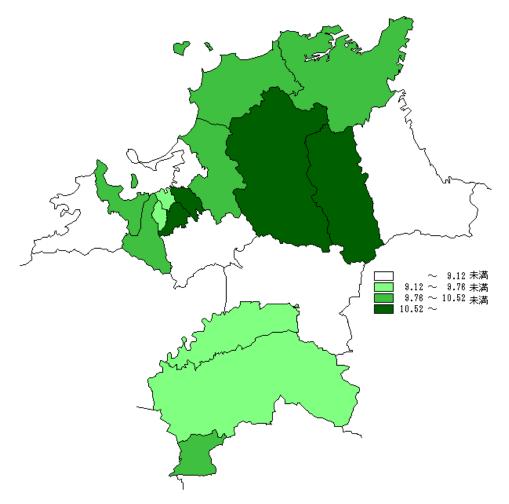


図 2.8 保健所管内別にみた出生数に対する低体重児の構成割合(平成 27年・福岡県)

3 死 亡

(1) 死亡の動向

死亡数及び死亡率(人口千対)の推移を第3.1表に示す。平成27年の本県の死亡数は50,259人、死亡率は9.9だった。本県の死亡率の年次推移は全国の傾向とほぼ同様に推移し、近年高齢化の影響により、緩やかな上昇を示している。死亡率は高齢者が多いほど高くなる傾向にあるので、年齢構成を補正した年齢調整死亡率でみると、緩やかな減少傾向にある。

第3.1表 死亡数・死亡率 (人口千対) の推移

	1	福 岡 県			全 国	
年 次	死亡数	死亡率	年齢調整 死亡率	死亡数	死亡率	年齢調整 死亡率
昭和25年	36, 874	10.4		904, 876	10.9	16. 3
〃 30年	29, 078	7.5		693, 523	7.8	12.7
〃 35年	28, 770	7.2		706, 599	7.6	12.3
〃 40年	28, 124	7.1		700, 438	7. 1	11. 2
〃 45年	28, 056	7.0		712, 962	6.9	10.1
〃 50年	27, 576	6.5		702, 275	6.3	8.4
〃 55年	29, 517	6.5		722, 801	6. 2	7.3
〃 60年	30, 888	6.5		752, 283	6.3	6. 3
平成 2年	33, 595	7.0	5. 7	820, 305	6.7	5. 6
〃 7年	37, 158	7.6	5. 3	922, 139	7.4	5. 3
〃 12年	38, 505	7.7	4.6	961, 653	7.7	4.6
〃 17年	42, 675	8.5	4. 3	1, 083, 796	8.6	4. 3
〃 18年	43, 270	8.6	4. 2	1, 084, 450	8.6	4. 1
〃 19年	43, 919	8.8	4. 1	1, 108, 334	8.8	4. 1
〃 20年	45, 134	9.0	4. 1	1, 142, 407	9. 1	4.0
〃 21年	44, 879	9.0	3. 9	1, 141, 865	9. 1	3.9
〃 22年	46, 996	9.3	3. 9	1, 197, 012	9.5	3. 9
〃 23年	48, 112	9.5	3. 9	1, 253, 066	9.9	4.0
〃 24年	48, 957	9.7	3.8	1, 256, 359	10.0	3.8
〃 25年	49, 456	9.8	3. 7	1, 268, 436	10.1	3. 7
〃 26年	49, 317	9.8	3.6	1, 273, 004	10. 1	3. 7
〃 27年	50, 259	9.9	3.6	1, 290, 444	10.3	3.6

注:1) 年齢調整死亡率は福岡県保健環境研究所の計算による。計算に用いた年齢階級別人口は年齢階級 別福岡県推計日本人人口(県調査統計課)を人口動態統計で用いる都道府県別日本人人口で補正 した。

²⁾ 空欄は福岡県年齢階級別日本人人口が入手できないため計算から除外した。

³⁾ 昭和48年以降の全国の数値は沖縄県を含む。

平成27年の本県の市区町村別にみた死亡率を第3.2表及び図3.1に示す。本県で最も死亡率が低かったのは粕屋町の5.9だった。次いで、中央区の6.3、大野城市の6.7、春日市の6.7の順だった。福岡市及びその近郊で低い傾向がみられる。

第32表	市区町村別にみた死亡率	(校千口人)	(平成 27 年・	福岡県)
20 V. L 20			\ I /% ~ T	

市	区町村	名	死亡率	市	区町村	名	死亡率	市	区町村	· 名	死亡率	市	区町村	· 名	死亡率
粕	屋	町	5.9	宇	美	町	9.2	広	Ш	町	11.6	み	やこ	町	15.0
中	央	区	6.3	宗	像	市	9.2	岡	垣	町	11.7	築	上	町	15.0
大	野 城	市	6.7	小	倉 南	区	9.6	直	方	市	11.8	八	女	市	15.0
春	日	市	6.7	福	津	市	9.8	若	松	区	12.0	大	牟 田	市	15.2
新	宮	町	6.8	苅	田	町	9.9	飯	塚	市	12.1	朝	倉	市	15.3
城	南	区	7.5	小	郡	市	9.9	大	木	町	12.4	う	きは	市	15.3
博	多	区	7.5	筑	前	町	10.0	大	刀 洗	町	12.6	福	智	町	16.0
東		区	7.6	糸	島	市	10.2	柳	Ш	市	13. 1	Ш	崎	町	16.1
古	賀	市	7.7	久	山	町	10.2	桂	Ш	町	13.4	香	春	町	16.3
那	珂 川	町	7.8	筑	後	市	10.3	み	ま ゆ	市	13.5	鞍	手	町	16.5
西		区	7.8	久	留 米	市	10.4	門	司	区	13.8	吉	富	町	16.5
早	良	区	7.9	八	幡 西	区	10.5	上	毛	町	13.8	嘉	麻	市	16.9
南		区	7.9	行	橋	市	10.6	大	Ш	市	14.0	宮	若	市	16.9
篠	栗	町	8.3	小	倉 北	区	10.7	中	間	市	14.1	糸	田	町	17.0
志	免	町	8.4	遠	賀	町	10.7	八	幡 東	区	14.1	大	任	町	17.0
筑	紫 野	市	8.5	芦	屋	町	11.2	豊	前	市	14.3	添	田	町	18.5
太	宰府	市	8.6	水	巻	町	11.4	田	Ш	市	14.5	東	峰	村	22.6
須	恵	町	8.7	戸	畑	区	11.5	小	竹	町	14.8	赤		村	24.9

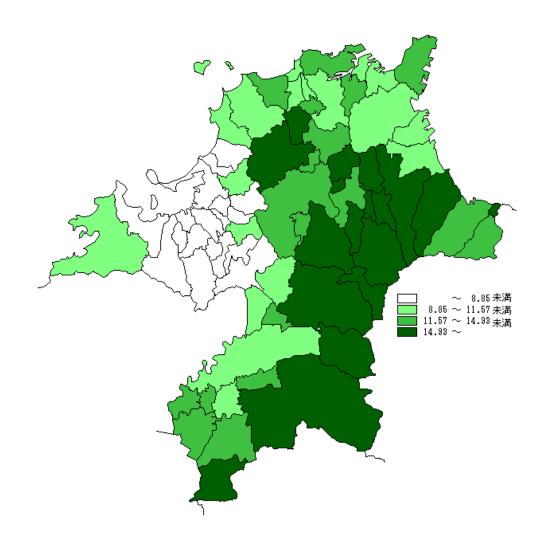


図3.1 市区町村別にみた死亡率(人口千対)(平成27年・福岡県)

(2) 主要死因

昭和45年から平成27年までの本県の主要死因別にみた死亡率を図3.2に示す。また、平成7年からの年齢調整死亡率を図3.3に示す。年次推移をみると、悪性新生物は一貫して上昇を続け、昭和52年以降死因順位の第1位となっている。心疾患は昭和58年に第2位となり、その後も上昇していたが、平成7年に行われた死因分類及び死亡診断書記入マニュアルの改正の影響のため、平成6、7年には急激に低下した。その後、徐々に上昇傾向となり、近年はほぼ横ばいである。肺炎は、昭和45年から上昇傾向で、平成18年には脳血管疾患を抜いて第3位となった。脳血管疾患は、昭和45年から低下傾向にあったが、心疾患と同様の理由のため、平成7年に急激に上昇したものの、その後は低下傾向となっている。年齢構成を補正した年齢調整死亡率の年次推移では、近年は老衰を除き、低下傾向にある。

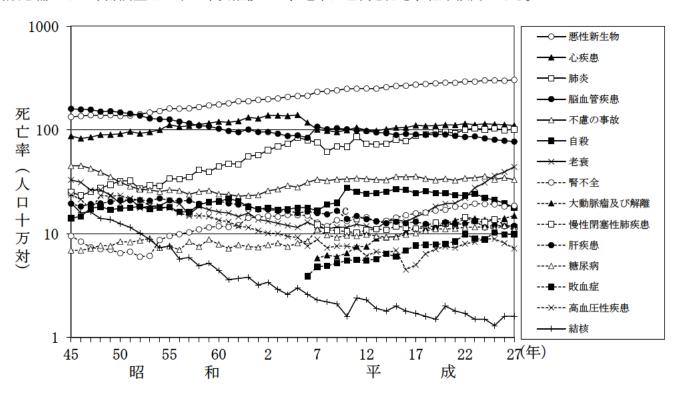


図3.2 主要死因別にみた死亡率(人口10万対)の推移(福岡県)

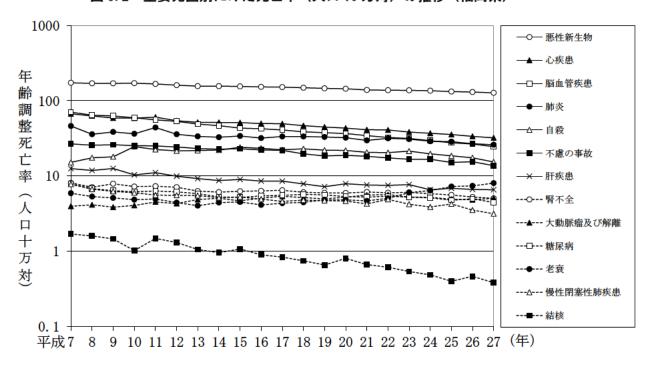


図3.3 主要死因別にみた年齢調整死亡率(人口10万対)の推移(福岡県)

死因別順位別にみた死亡数及び死亡率を第3.3表に示す。平成27年の本県の死因別順位をみると、1位は悪性新生物の15,380人(人口10万対304.3)、2位は心疾患の5,582人(110.5)、3位は肺炎の5,113人(101.2)、4位は脳血管疾患の3,908人(77.3)であり、6位までは昨年と同様だった。

第3.3表 死因・順位別にみた死亡数・死亡率(人口10万対)の推移(福岡県)

上段:死亡数(人) 下段:死亡率(人口10万対)

								142.70	亡率 (人口10万 	<u></u>
	第1位	第2位	第3位	第4位	第 5 位	第6位	第7位	第8位	第9位	第10位
昭和	悪性新生物	心疾患	脳血管疾患	肺炎・気管 支炎	不慮の事故・ 有害作用	慢性肝疾 患・肝硬変	自殺	老衰	高血圧性 疾患	腎炎, ネフローゼ症 候群・ネフローゼ
60 年	8, 350 175. 7	5, 710 120. 1	4, 894 103. 0	2, 121 44. 6	1, 144 24. 1	980 20. 6	968 20. 4	768 16. 2	644 13. 5	560 11.8
平成	悪性新生物	心疾患	脳血管疾患	肺炎・気管 支炎	不慮の事故・ 有害作用	自殺	慢性肝疾 患・肝硬変	腎炎,ネフローゼ症 候群・ネフローゼ	老衰	高血圧性疾患
2 年	9, 474 198. 0	6, 631 138. 6	4, 567 95. 5	3, 057 63. 9	1, 239 25. 9	853 17. 8	816 17. 1	711 14. 9	630 13. 2	483 10. 1
平 成	悪性新生物	脳血管疾患	心疾患	肺炎	不慮の事故	自殺	肝疾患	腎不全	慢性閉塞性 肺疾患	老衰
7 年	11, 414	5, 270	4, 954	3, 725	1, 630	814	772	626	598	567
平	233.1 悪性新生物	107.6	101.2 脳血管疾患	76.1 肺炎	33.3 不慮の事故	16.6	15.8	12.8 肝疾患	12.2 老衰	11.6 慢性閉塞性
成 12	12, 503	4, 941	4, 863	3, 666	1, 687	1, 213	717	688	586	肺疾患 536
年	250.8	99. 1	97.6	73. 5	33.8	24. 3	14. 4	13.8	11.8	10.8
平 成	悪性新生物	心疾患	脳血管疾患	肺炎	不慮の事故	自殺	腎不全	老衰	肝疾患	慢性閉塞性 肺疾患
17 年	13, 700 273. 4	5, 545	4, 544	4, 408	1,784	1, 235	789	726	650	561
平平成	悪性新生物	110.7 心疾患	90.7	88.0 脳血管疾患	35.6 不慮の事故	24.6	15.7	14.5 老衰	13.0 肝疾患	11.2 慢性閉塞性 肺疾患
18 年	13, 903 277. 2	5, 486 109. 4	4, 557 90. 9	4, 503 89. 8	1, 699 33. 9	1, 291 25. 7	800 16. 0	796 15. 9	621 12. 4	608 12. 1
平平成	悪性新生物	心疾患	肺炎	脳血管疾患	33.9 不慮の事故	自殺	老衰	15. 9 腎不全	慢性閉塞性 肺疾患	肝疾患
19 年	14, 130	5, 524	4, 799	4, 551	1, 644	1, 241	919	836	636	571
平平成	281.7 悪性新生物	110.1 心疾患	95.7	90.7 脳血管疾患	32.8 不慮の事故	24.7 自殺	18.3 老衰	16.7 腎不全	12.7 肝疾患	11.4 慢性閉塞性 肺疾患
及 20 年	14, 328	5, 610	4, 826	4, 527	1, 701	1, 227	971	852	649	633
平平成	285.8 悪性新生物	111.9 心疾患	96.3	90.3 脳血管疾患	33.9 不慮の事故	24.5	19.4 老衰	17.0 腎不全	12.9 大動脈瘤及 び解離	12.6 肝疾患
21	14, 312	5, 584	4, 656	4, 404	1,636	1, 185	990	915	670	618
年 平	285. 4	111. 4	92. 9	87.8	32. 6	23. 6	19. 7	18. 2	13.4 大動脈瘤及	12.3 慢性閉塞性
成	悪性新生物	心疾患	肺炎	脳血管疾患	不慮の事故	自殺	老衰	腎不全	び解離	肺疾患
22 年	14, 769 293. 6	5, 791 115. 1	5, 076 100. 9	4, 316 85. 8	1, 724 34. 3	1, 173 23. 3	1, 116 22. 2	932 18. 5	726 14. 4	721 14. 3
平成	悪性新生物	心疾患	肺炎	脳血管疾患	不慮の事故	老衰	自殺	腎不全	大動脈瘤及 び解離	肝疾患
23	14, 754	5,660	5, 226			1, 395		980		
年 平	292. 9	112. 3	103. 7	86. 7	34. 5	27. 7	24. 3	19. 5	14.0 大動脈瘤及	13.3 慢性閉塞性
成	悪性新生物	心疾患	肺炎	脳血管疾患	不慮の事故	老衰	自殺	腎不全	び解離	肺疾患
24 年	15, 153 300. 4	5, 773 114. 5	5, 120 101. 5	4, 180 82. 9	1, 805 35. 8	1, 563 31. 0	1, 119 22. 2	973 19. 3	688 13. 6	650 12. 9
平成	悪性新生物	心疾患	肺炎	脳血管疾患	老衰	不慮の事故	自殺	腎不全	慢性閉塞性 肺疾患	大動脈瘤及 び解離
25 年	15, 187	5, 726	5, 208	4, 068	1,830	1,679	1, 067	967	693	689
平平成	300.9 悪性新生物	113.5 心疾患	103.2 肺炎	80.6 脳血管疾患	36.3 老衰	33.3 不慮の事故	21.1	19.2 腎不全	13.7 大動脈瘤及 び解離	13.7 慢性閉塞性 肺疾患
26 年	15, 087 299. 0	5, 666	5, 044	3, 975	1, 987	1, 751	993	922 18. 3	710	617
平平平成	悪性新生物	112.3 心疾患	100.0 肺炎	78.8 脳血管疾患	39.4 老衰	34.7 不慮の事故	19.7	自殺	14.1 大動脈瘤及 び解離	12.2 肝疾患
лх 27	15, 380	5, 582	5, 113	3, 908	2, 227	1,674	938	901	753	601
年	304.3	110.5	101.2	77. 3	44. 1	33. 1	18.6	17.8	14. 9	11. 9

注:昭和55年~平成2年まではICD-9、平成7年からはICD-10による分類である。

総死亡数に占める各主要死因の構成割合を図 3.4 に示す。平成 27 年に本県で最も多かった死因は悪性新生物の 30.6%だった。次いで心疾患の 11.1%、肺炎の 10.2%の順だった。

性・主要死因別にみた死亡数、死亡率及び死亡率性比を第 3.4 表に示す。平成 27 年の本県の全死因死亡数及び死亡率をみると、男が 25,013 人 (人口 10 万対 1,047.9)、女が 25,246 人 (946.8) だった。男で最も多かった死因は悪性新生物の 8,697 人 (364.3) だった。次いで肺炎の 2,641 人 (110.6)、心疾患の 2,322 人 (97.3)、脳血管疾患の 1,828 人 (76.6)、不慮の事故の 915 人 (38.3)の順だった。また、女で最も多かった死因は悪性新生物の 6,683 人 (250.6) だった。次いで心疾患の 3,260 人 (122.3)、肺炎の 2,472 人 (92.7)、脳血管疾患の 2,080 人 (78.0)、老衰の 1,769 人 (66.3)の順だった。死亡率性比でみると慢性閉塞性肺疾患は 3.20、自殺は 2.67、肝疾患は 1.72 であり、男に多い死因といえる。逆に老衰や高血圧性疾患は死亡率性比がそれぞれ 0.29、0.67 で女に多い。

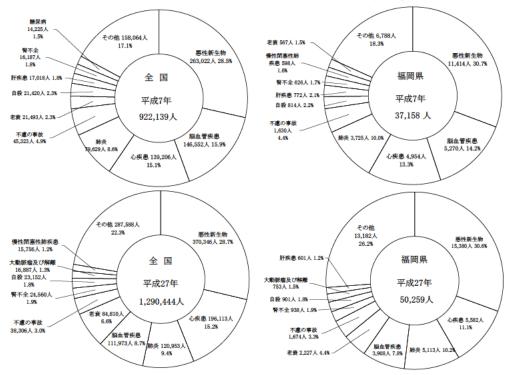


図3.4 死亡数に占める各主要死因の構成割合

第3.4表 性・主要死因別にみた死亡数・死亡率(人口10万対)・死亡率性比(平成27年・福岡県)

Æ.				ш	男	3	\$	ζ	포수총싸나
死				因	死亡数	死亡率	死亡数	死亡率	死亡率性比
総				数	25, 013	1047.9	25, 246	946.8	1. 11
悪	性	新	生	物	8, 697	364.3	6, 683	250.6	1. 45
肺				炎	2,641	110.6	2, 472	92.7	1. 19
心		疾		患	2, 322	97.3	3, 260	122.3	0.80
脳	ŢŢŢŢŢŢŢŢŢŢ	管	疾	患	1, 828	76.6	2,080	78.0	0. 98
不	慮	\mathcal{O}	事	故	915	38.3	759	28.5	1. 35
自				殺	635	26.6	266	10.0	2. 67
老				衰	458	19. 2	1, 769	66. 3	0. 29
慢	性 閉	塞 性	肺疾	患	435	18. 2	152	5. 7	3. 20
腎		不		全	400	16.8	538	20.2	0.83
肝		疾		患	364	15.2	237	8.9	1. 72
大	動脈	瘤 及	び解	離	338	14.2	415	15.6	0. 91
糖		尿		病	306	12.8	251	9.4	1.36
敗		ı́ш.		症	204	8.5	294	11.0	0. 78
高	ÍI.	圧 性	疾	患	157	6.6	263	9.9	0.67

注:1) 人口は「平成27年国勢調査」(総務省)を使用(男:2,386,993人、女:2,666,507人)。

²⁾ 死亡率性比=男の死亡率/女の死亡率。男の死亡率が女の死亡率の何倍にあたるかを表す。

(3) 三大死因

1) 悪性新生物

悪性新生物の主な部位別死亡数を第3.5表に示す。本県の悪性新生物の死亡数は昭和55年以降 平成20年まで常に増加していたが、平成21年、23年に微減した。平成27年は前年より293人増加し、15,380人だった。また、死亡率(人口10万対)は304.3で前年の299.0を上回った。

					-	-		-	-	-			-		-
年 次	総数	食道	胃	結 腸	直腸・ S状移 行部	肝及び 肝内 胆管	胆のう 及び他 の胆道	膵	気管, 気管支 及び肺	乳房	子宮	卵 巣	前立腺	白血病	その他
昭和55年	7, 287	232	2,097	350	267	893	236	343	1,004	182	287	84	78	202	1,032
〃 60年	8, 350	205	1,878	511	316	1,300	433	420	1,308	213	240	102	88	192	1, 144
平成 2年	9, 474	258	1,751	628	379	1,637	486	538	1,610	245	201	122	124	245	1,250
〃 7年	11, 414	287	1,901	799	425	2,008	572	664	2,020	310	226	146	203	292	1,561
〃 12年	12,503	386	1,916	980	413	2,020	590	708	2,275	389	238	140	304	335	1,809
〃 17年	13,700	402	1,858	1,140	510	2,079	632	813	2,637	495	206	167	326	359	2,076
〃 18年	13,903	417	1,959	1, 148	489	2,024	704	877	2,551	492	261	188	372	349	2,072
〃 19年	14, 130	411	1,905	1,108	501	2,017	660	1,020	2,742	489	238	173	363	402	2,101
〃 20年	14, 328	458	1,850	1, 149	534	2,009	698	1,012	2,786	520	243	171	393	368	2, 137
〃 21年	14, 312	408	1,906	1, 141	505	1,872	777	985	2,743	485	225	184	420	406	2, 255
〃 22年	14, 769	461	1,839	1,268	548	1,852	736	1,075	2,888	546	259	180	424	352	2,341
〃 23年	14,754	451	1,780	1,285	565	1,767	761	1,140	2,973	543	268	154	390	383	2, 294
〃 24年	15, 153	429	1,828	1,320	603	1,777	758	1, 149	2,981	567	265	158	426	365	2,527
〃 25年	15, 187	432	1,830	1,324	583	1,675	733	1,242	3,002	568	257	168	470	391	2,512
〃 26年	15,087	455	1,711	1,342	576	1,661	728	1,224	2,961	536	275	168	413	397	2,640
〃 27年	15, 380	467	1, 765	1, 398	606	1,620	694	1, 246	2, 957	595	305	195	433	393	2,706

第3.5表 主要部位別にみた悪性新生物の死亡数の推移(福岡県)

本県の悪性新生物の性・部位別死亡割合を図 3.5 に示す。平成 27 年の本県の悪性新生物による死亡数は、男が 8,697 人、女が 6,683 人だった。また、構成割合をみると、男女ともに気管・気管支及び肺、胃、肝及び肝内胆管、結腸が多く、これら 4 部位による死亡数が全体に占める割合は、男が 55.1%、女が 44.1%だった。

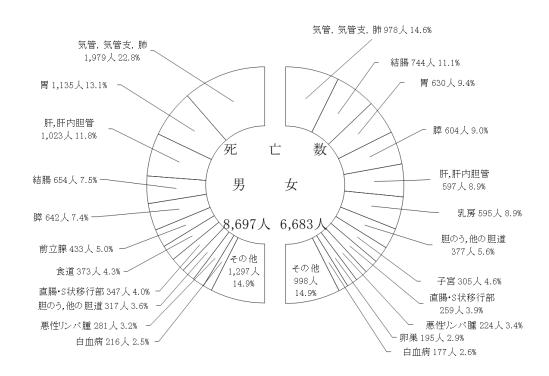


図3.5 性・部位別にみた悪性新生物の死亡数・構成割合(平成27年・福岡県)

注:1) 平成7年からはICD-10の分類区分に基づき集計した。それ以前は、厚生省が作成したICD-9とICD-10の新旧比較表をもとに、ICD-10の分類に変換して集計した。

²⁾ 乳房は女のみの数値であり、男の乳房の数値はその他に計上している。

本県の昭和55年から平成27年までの悪性新生物の主な部位別死亡率(人口10万対)を図3.6に示す。また、平成7年からの年齢調整死亡率を図3.7に示す。

図3.6の結腸、膵、乳房、前立腺の死亡率は増加傾向にあるが、図3.7の年齢構成を補正した年齢調整死亡率でみると、いずれも横ばい状態となっている。

なお、胃や肝及び肝内胆管は年齢調整死亡率でも減少傾向にある。

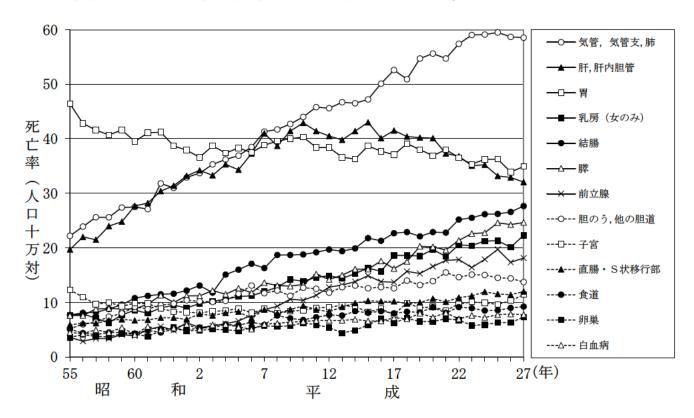


図3.6 主要部位別にみた悪性新生物の死亡率(人口10万対)の推移(福岡県)

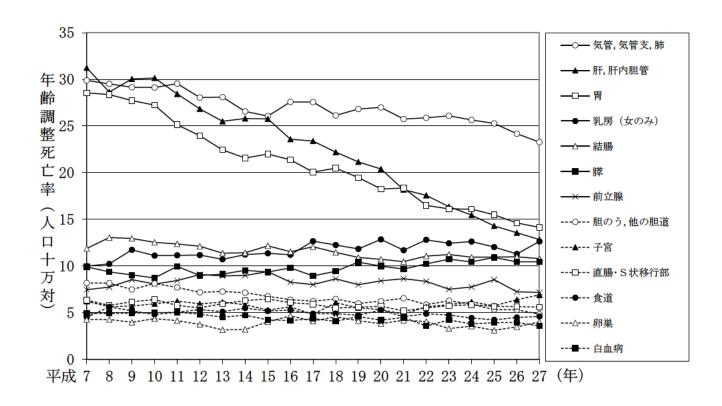


図3.7 主要部位別にみた悪性新生物の年齢調整死亡率(人口10万対)の推移(福岡県)

2) 心疾患

心疾患の死因別割合を図 3.8 に示す。平成 27 年の本県の心疾患による死亡数は 5,582 人で前年 の 5,666 人に比べ 84 人減少した。また、心疾患死亡数の構成割合をみると、最も多かったのは心 不全の 2,168 人 (38.8%) だった。次いで急性心筋梗塞の 1,133 人 (20.3%) 、不整脈, 伝導障害 の 868 人 (15.5%) の順だった。

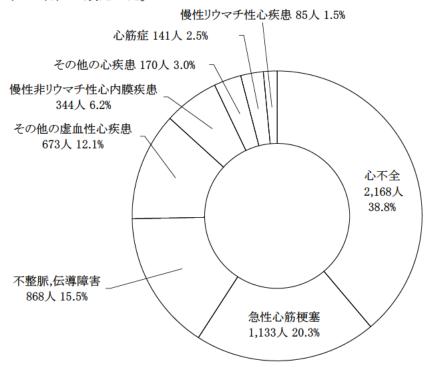


図3.8 心疾患の死因別にみた割合(平成27年・福岡県)

3) 脳血管疾患

脳血管疾患の死因別割合を図 3.9 に示す。平成 27 年の本県の脳血管疾患による死亡数は 3,908 人で前年の 3,975 人に比べ 67 人減少した。また、脳血管疾患の構成割合をみると、最も多かった のは脳梗塞 2,342 人 (59.9%) だった。次いで脳内出血の 993 人 (25.4%) 、くも膜下出血の 424 人 (10.8%) の順だった。

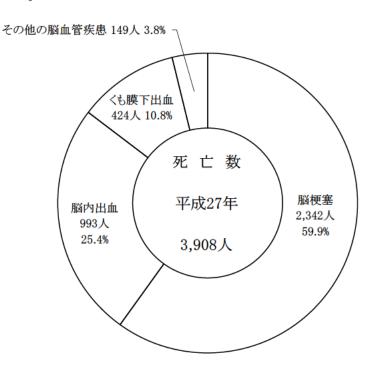


図3.9 脳血管疾患の死因別にみた割合(平成27年・福岡県)

(4) 乳児死亡

乳児死亡を死亡統計でとりあげるのは、乳児の生存は母体の健康状態・養育条件等の影響を強く受けるため、乳児死亡率はその地域の衛生状態の良否、ひいては経済や教育を含めた社会状態を反映する指標の一つと考えられるからである。

乳児死亡数(率)の推移を第3.6表に示す。平成27年の本県の乳児死亡数は99人、乳児死亡率は2.2だった。

第3.6表	乳児死亡数 ·	到児死亡率	(出牛千対)	の推移
AD 0. 0 3X	オレノレノレ 仁 3人	オレノレノレ ニーー	\ m	マノコエコツ

/= \\ \/ _F	乳児死亡数	乳児列	E 亡率	左	Yhr	乳児死亡数	乳児列	尼 亡率
年 次	(福岡県)	福岡県	全 国	年	次	(福岡県)	福岡県	全 国
昭和22年	8, 748	80.8	76. 7	"	17年	109	2.5	2.8
〃 25年	5, 715	52.4	60. 1	"	18年	90	2.0	2.6
〃 30年	2,539	33. 2	39.8	"	19年	110	2.4	2.6
〃 35年	1,828	27. 2	30. 7	"	20年	105	2. 2	2.6
〃 40年	1, 154	16.8	18. 5	"	21年	107	2.3	2.4
〃 45年	869	12.5	13. 1	"	22年	105	2. 2	2.3
〃 50年	568	8.0	10.0	"	23年	116	2.5	2.3
〃 55年	442	6. 9	7. 5	"	24年	94	2. 1	2. 2
〃 60年	324	5. 5	5. 5	"	25年	103	2. 2	2. 1
平成 2年	223	4.6	4.6	"	26年	99	2. 2	2. 1
〃 7年	230	4.9	4.3	"	27年	99	2. 2	1.9
〃 12年	162	3.4	3. 2					

注:昭和48年以降の全国の数値は沖縄県を含む。

死因別にみた乳児死亡数と構成割合を図3.10に示す。本県で最も多かったのは先天奇形、変形、染色体異常の29人(29.3%)だった。次いで周産期の呼吸障害、心血管障害の17人(17.2%)、乳幼児突然死症候群の8人(8.1%)、出血性障害及び血液障害の5人(5.1%)の順だった。

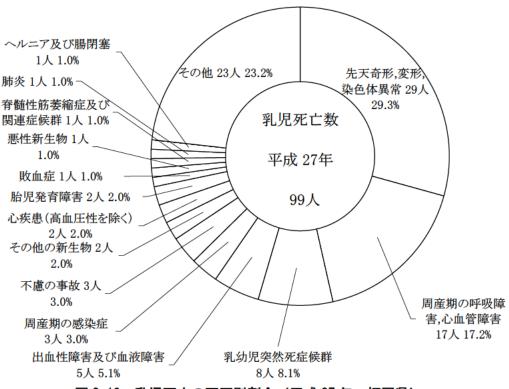


図 3.10 乳児死亡の死因別割合(平成 27 年・福岡県)

平成 27 年の本県の保健所管内別にみた乳児死亡率を図 3.11 に示す。乳児死亡率が最も低かったのは博多区の 0.41 で、次いで、中央区の 1.15、筑紫の 1.17、大牟田市の 1.26、北筑後の 1.36 の順だった。

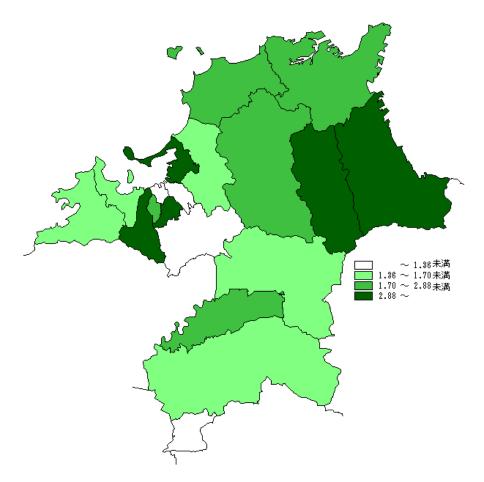


図 3.11 保健所管内別にみた乳児死亡率(出生千対)(平成 27 年・福岡県)

(5) 周産期死亡

周産期死亡を死亡統計でとりあげるのは、妊娠22週以後の死産と早期新生児死亡がともに母体の健康状態に強く影響されるためであり、1950年以降WHOによって提唱されたものである。

周産期死亡数及び周産期死亡率の推移を第3.7表に示す。平成27年の本県の周産期死亡数は177人、周産期死亡率(出産千対)は3.9だった。

年 次	周産期死亡数	周産期	死亡率	年 次	周産期死亡数	周産期	死亡率
中 伙	(福岡県)	福岡県	全 国	平 次	(福岡県)	福岡県	全 国
昭和35年	3, 161	47.0	41.4	〃 18年	177	3.9	4.7
〃 40年	2, 315	33.6	30.1	〃 19年	202	4.3	4.5
〃 45年	1,654	23.8	21.7	〃 20年	201	4.3	4.3
〃 50年	1,085	15. 3	16.0	〃 21年	186	4.0	4.2
〃 55年	687	10.7	11.7	〃 22年	200	4.3	4.2
〃 60年	443	7.5	8.0	〃 23年	202	4.4	4.1
平成 2年	292	6. 1	5. 7	〃 24年	194	4.2	4.0
ッ 7年	295	6.3	7.0	〃 25年	157	3.4	3.7
〃 12年	251	5.3	5.8	〃 26年	170	3.7	3.7
〃 17年	209	4.8	4.8	〃 27年	177	3.9	3.7

第3.7表 周産期死亡数・周産期死亡率の推移

注:1) 昭和48年以降の全国の数値は沖縄県を含む。

- 2) 平成7年からの周産期死亡数は妊娠満22週以後の死産と早期新生児死亡の合計である。それ以前は妊娠満28週以後の死産と早期新生児死亡の合計である。
- 3) 平成7年からの周産期死亡率は出産千対(出生数+妊娠満22週以後の死産)である。それ以前は出生千対である。

平成27年の本県の保健所管内別の周産期死亡率を図3.12に示す。周産期死亡率が最も低かったのは北 筑後の0.68で、次いで、嘉穂・鞍手の1.73、筑紫の2.34、大牟田市の2.52、中央区の2.86の順だった。

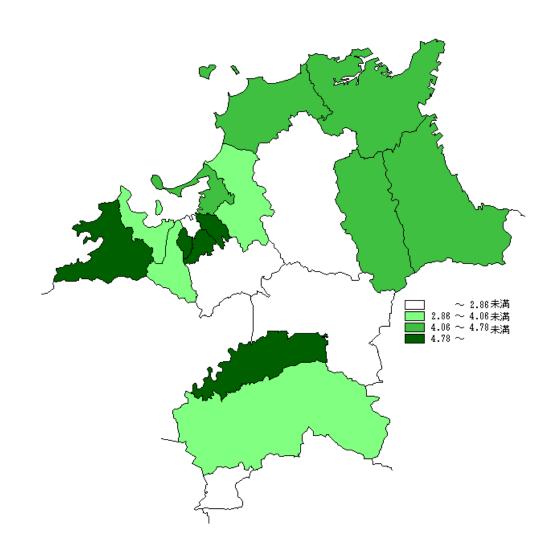


図 3.12 保健所管内別にみた周産期死亡率(出産千対)(平成 27年・福岡県)

(6) 高齢者(65歳以上)死亡

65歳以上の高齢者における死亡数及び死亡率の推移を第3.8表及び図3.13に示す。死亡数は年々増加しているものの、高齢者人口も増加しているために死亡率としては減少もしくは横ばいの傾向にある。平成27年国勢調査(総務省統計局)によると、本県の65歳以上の日本人人口は1,292,970人で、全年齢人口の25.9%を占めている。平成27年の65歳以上の死亡数は44,470人、死亡率(人口千対)は34.4だった。

	-	-	-	-		-	-	-	-
年 次	福岡	県	全	全 国		福 岡	県	全	玉
年 次	死亡数	死亡率	死亡数	死亡率	年 次	死亡数	死亡率	死亡数	死亡率
昭和45年	16, 738	57. 1	438, 362	60.0	〃 19年	36, 691	34.8	923, 666	33.8
〃 50年	17, 897	50.4	459, 385	52.0	〃 20年	37, 731	35.0	960, 917	34.2
〃 55年	20,097	47.1	503,067	47.4	〃 21年	37,832	34.2	964, 863	33.4
〃 60年	21, 463	43.0	535, 260	43.3	〃 22年	39, 923	35.8	1,019,825	34.7
平成 2年	24, 526	41.0	604,674	40.7	〃 23年	40,830	36. 1	1,067,143	36.0
〃 7年	28, 398	39. 1	704, 092	38.7	〃 24年	42,039	35.9	1,088,049	35.5
〃 12年	30, 465	35. 1	757, 558	34.5	〃 25年	42,929	35.3	1, 108, 045	34.9
〃 17年	34,807	35.0	888, 240	34.6	〃 26年	43, 145	34. 1	1, 121, 260	34. 1
』 18年	35 681	3/1 8	805 820	33 S	リ 97年	44 470	34 4	1 147 508	34 0

第3.8表 65歳以上の高齢者における死亡数及び死亡率(人口千対)の推移

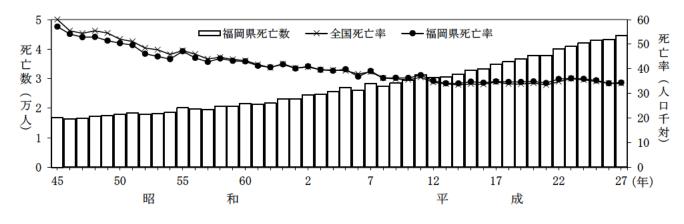


図 3.13 65歳以上の高齢者における死亡数及び死亡率の推移

65 歳以上の高齢者の性別・死因別にみた死亡数及び死亡割合を図 3.14 に示す。平成 27 年の本県の65 歳以上の高齢者における死亡数は、男が 21,218 人、女が 23,252 人だった。性別・死因別の死亡数をみると、男で最も多かったのは悪性新生物の7,290 人(34.4%)だった。次いで肺炎の2,535 人(1.9%)、心疾患の2,035 人(9.6%)の順だった。また、女で最も多かったのは悪性新生物の5,599人(24.1%)だった。次いで心疾患の3,181 人(13.7%)、肺炎の2,435 人(10.5%)の順だった。

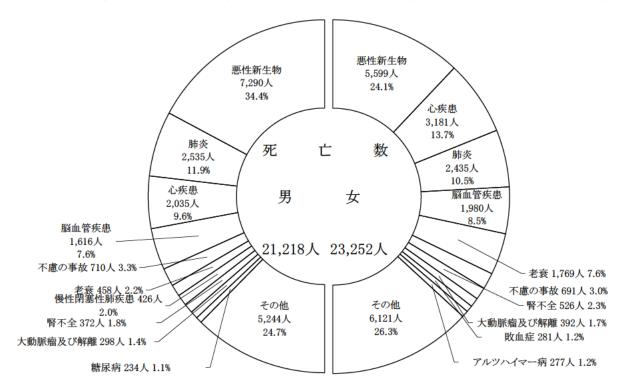


図3.14 65歳以上の高齢者における性・死因別にみた死亡数及び死亡割合(平成27年・福岡県)

(7) 死亡の場所

死亡場所別にみた死亡数・百分率の推移を第3.9表及び図3.15に示す。平成27年の本県の状況をみると、最も多かったのは病院の41,236人(82.0%)だった。いわゆる在宅(介護老人保健施設、老人ホーム及び自宅)での死亡数は7,288人(14.5%)であり、前年の7,001人(14.2%)に比べ、実数及び率ともに増加した。福岡県の在宅看取り率は、微増しているが、全国と比べると常に下回って推移している。

第3.9表 死亡場所別にみた死亡数・施設及び自宅での死亡割合の推移(福岡県)

年 次	総数			施設	内			施設外			施設及び自宅で の死亡割合	
	10.30	総数	病院	診療所	介護老人 保健施設	助産所	老人ホーム	総数	自宅	その他	福岡県	全国
昭和50年	27, 576	15, 421	13, 551	1,866	•	4	•	12, 155	10,713	1,442	38.8	47.7
〃 55年	29, 517	19, 475	17,677	1,793	•	5		10,042	8, 405	1,637	28.5	38.0
〃 60年	30,888	23, 158	21, 407	1,750	•	1		7,730	6,389	1,341	20.7	28.3
平成 2年	33, 595	27, 583	26, 272	1,302	8	1		6,012	5,058	954	15.1	21.7
ッ 7年	37, 158	31,856	30,053	1, 159	54	0	590	5, 302	4, 421	881	13.6	20.1
〃 12年	38, 505	33,688	31,831	1, 142	193	0	522	4,817	3,888	929	12.0	16. 2
〃 17年	42,675	37,845	35, 944	1,063	245	1	592	4,830	3,874	956	11.0	15. 1
〃 18年	43, 270	38, 427	36, 555	1,000	260	0	612	4,843	3,949	894	11.1	15.3
〃 19年	43,919	39, 182	37, 173	981	285	0	743	4,737	3,815	922	11.0	15.7
〃 20年	45, 134	40, 106	38,040	961	307	0	798	5,028	4,037	991	11.4	16.5
〃 21年	44,879	40, 132	38,012	903	348	0	869	4,747	3,794	953	11.2	16.8
〃 22年	46,996	41,947	39,629	886	451	0	981	5,049	4,067	982	11.7	17.4
〃 23年	48, 112	42,975	40, 415	981	464	0	1, 115	5, 137	4, 204	933	12.0	17.9
〃 24年	48,957	43,649	40,944	942	485	0	1, 278	5, 308	4,370	938	12.5	19. 2
〃 25年	49, 456	44,006	40,912	855	641	0	1,598	5, 450	4, 478	972	13.6	20.0
〃 26年	49, 317	43, 793	40, 557	870	594	1	1,771	5, 524	4,636	888	14. 2	20.6
〃 27年	50, 259	44,804	41, 236	805	723	0	2,040	5, 455	4,525	930	14.5	21.3

注:1)平成6年までは老人ホームでの死亡は、自宅又はその他に含まれる。

²⁾ 施設及び自宅での死亡割合とは、全死亡における介護老人保健施設、老人ホーム及び自宅における死亡の百分率(%)を示す。

		病障	元		診療所 *	↑護老人保領 老人ホー	越施設・ -ム	自宅	そ	の他	
昭和50年		49.	1		6.8	0. 0	38	3. 9			5. 2
昭和55年			59. 9			6. 1	0.0	4	28. 5		5. 5
昭和60年			69.	. 3			5. 7	0.0	20.7		4. 3
平成 2年				78.2				3.9 0.0	15. 1		2.8
平成 7年				80.9				3 1 1	7 11.	9	2. 4
平成12年				82.7				3.0	1.9 10.	1	2. 4
平成17年				84. 2				2. 5	2.0 9	. 1	2. 2
平成18年				84. 5				2. 3	2 0 9	. 1	2. 1
平成19年				84.6				2.	2 2. 3 8.	. 7	2. 1
平成20年				84. 3				2. 1	2.4 8.	. 9	2. 2
平成21年				84. 7				2.	2. 7 8	. 5	2. 1
平成22年				84. 3				1. 9	3. 0 8	3. 7	2. 1
平成23年				84. 0				2. 0	3. 3 8	3. 7	1.9
平成24年				83.6				1. 9	3. 6 8	3.9	1.9
平成25年				82. 7				1. 7	4.5 9	0.1	2.0
平成26年				82. 2				1.8	4.8 9	9.4	1.8
平成27年		·	·	82. 0		·		1.6	5. 5 9.	0	1. 9
0%	10%	20%	30%	40%	50%	60%	70%	80%	90%	100)%

注:助産所における死亡は極めて少数なので集計から除外し、作図した。

図 3.15 死亡場所別にみた死亡割合の推移(福岡県)

4 死 産

死産数及び死産率の推移を第 4.1 表に示す。平成 27 年の本県の死産数は 1,164 胎、死産率 [出産(出生+死産) 千対] は 25.1 だった。また、自然死産数(自然-人工の不詳を含む)は 496 胎、自然死産率は 10.7、人工死産数は 668 胎、人工死産率は 14.4 だった。

		総数			自 然		人工			
年次	福岡	引県	全 国	福岡	引 県	全 国	福日	司 県	全 国	
	死産数	死産率	死産率	死産数	死産率	死産率	死産数	死産率	死産率	
昭和25年	10, 752	89. 7	84. 9	5, 027	41.9	41.7	5, 725	47.7	43. 2	
〃 30年	9, 947	115. 2	95.8	4, 269	49. 4	44. 5	5, 678	65. 7	51. 3	
〃 35年	10, 427	134. 1	100.4	4, 966	63. 9	52. 3	5, 461	70. 2	48. 1	
〃 40年	7, 949	103.5	81.4	4, 285	55.8	47.6	3, 664	47.7	33.8	
〃 45年	6, 199	81.7	65.3	3,602	47.5	40.6	2, 597	34. 2	24. 7	
〃 50年	4, 793	63. 2	50.8	3, 009	39. 7	33.8	1, 784	23. 5	17. 1	
〃 55年	3, 753	55. 1	46.8	2, 044	30.0	28.8	1,709	25. 1	18.0	
〃 60年	3, 588	57. 5	46.0	1, 543	24. 7	22. 1	2,045	32.8	23. 9	
平成 2年	2, 689	52.9	42.3	1,051	20.7	18. 3	1,638	32. 2	23. 9	
〃 7年	1, 935	39. 7	32. 1	683	14.0	14. 9	1, 252	25. 7	17. 2	
〃 12年	1,858	37.8	31.2	593	12. 1	13. 2	1, 265	25. 7	18. 1	
〃 17年	1,605	35. 6	29. 1	556	12.3	12. 3	1,049	23. 3	16. 7	
〃 18年	1, 495	31.9	27. 5	505	10.8	11. 9	990	21. 2	15. 6	
〃 19年	1, 451	30. 3	26. 2	534	11.2	11. 7	917	19. 2	14. 5	
〃 20年	1, 424	29.6	25. 2	530	11.0	11.3	894	18.6	13. 9	
〃 21年	1, 342	28.3	24.6	503	10.6	11. 1	839	17. 7	13. 5	
〃 22年	1, 366	28.3	24. 2	582	12. 1	11. 2	784	16. 3	13.0	
〃 23年	1, 314	27.6	23.9	499	10.5	11. 1	815	17. 1	12.8	
〃 24年	1, 251	26.6	23.4	542	11.5	10.8	709	15. 1	12.6	
〃 25年	1, 195	25. 4	22.9	472	10.0	10.4	723	15. 4	12. 5	
〃 26年	1, 155	24. 9	22.9	462	10.0	10.6	693	14. 9	12. 3	
〃 27年	1, 164	25. 1	22.0	496	10.7	10.6	668	14. 4	11.4	

第4.1表 死産数・死産率 (出産千対)の推移

注:1)昭和48年以降の全国の数値は沖縄県を含む。

2) 自然死産には自然-人工の不詳を含む。

平成 27 年の本県の保健所管内別にみた死産率を図 4.1 に示す。最も死産率が低かったのは粕屋の 20.87 だった。次いで、南区の 20.95、筑紫の 21.12、宗像・遠賀の 21.31、早良区の 22.53 の順だった。

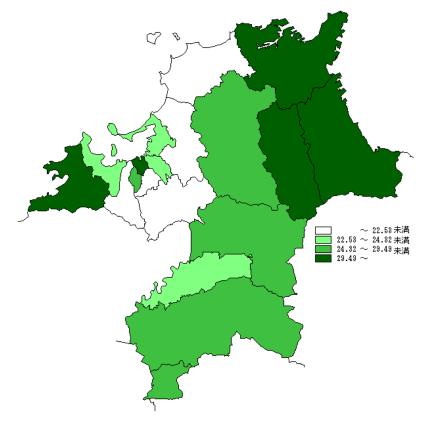


図 4.1 保健所管内別にみた死産率(出産千対)(平成 27年・福岡県)

5 婚 姻

婚姻件数及び婚姻率の推移を第 5.1 表に示す。平成 27 年の本県の婚姻件数は 27,566 組、婚姻率(人口千対)は 5.5 だった。

第5.1表 婚姻件数・婚姻率(人口千対)の推移

年次	福岡	県	全 国		年 次	福岡	県	全 国	
中 扒	婚姻件数	婚姻率	婚姻件数	婚姻率	平 次	婚姻件数	婚姻率	婚姻件数	婚姻率
昭和22年	39, 288	12.4	934, 170	12.0	〃 17年	28, 715	5. 7	714, 265	5. 7
〃 25年	32,614	9.2	715, 081	8.6	〃 18年	30,006	6.0	730, 971	5.8
〃 30年	31, 424	8. 1	714, 861	8.0	〃 19年	29, 486	5.9	719,822	5. 7
〃 35年	37, 184	9.3	866, 115	9.3	〃 20年	30,017	6.0	726, 106	5.8
〃 40年	37, 816	9.5	954, 852	9.7	〃 21年	29, 419	5.9	707, 734	5.6
〃 45年	38, 206	9.5	1,029,405	10.0	〃 22年	29, 247	5.8	700, 214	5.5
〃 50年	36, 937	8.7	941,628	8.5	〃 23年	28,008	5.6	661,895	5. 2
〃 55年	32,007	7.0	774, 702	6.7	〃 24年	27, 974	5.5	668, 869	5.3
〃 60年	29, 208	6.1	735, 850	6.1	〃 25年	28, 183	5.6	660, 613	5.3
平成 2年	27, 377	5.7	722, 138	5.9	〃 26年	27, 359	5.4	643, 749	5. 1
ッ 7年	30, 355	6.2	791,888	6.4	〃 27年	27, 566	5.5	635, 156	5. 1
〃 12年	30,640	6.1	798, 138	6.4					

注:昭和48年以降の全国の数値は沖縄県を含む。

平成 27 年の本県の市区町村別にみた婚姻率を図 5.1 に示す。最も婚姻率が高かったのは博多区の 1 0.83 だった。次いで中央区の 8.57、粕屋町の 8.24、小倉北区の 6.68、芦屋町の 6.43 の順だった。

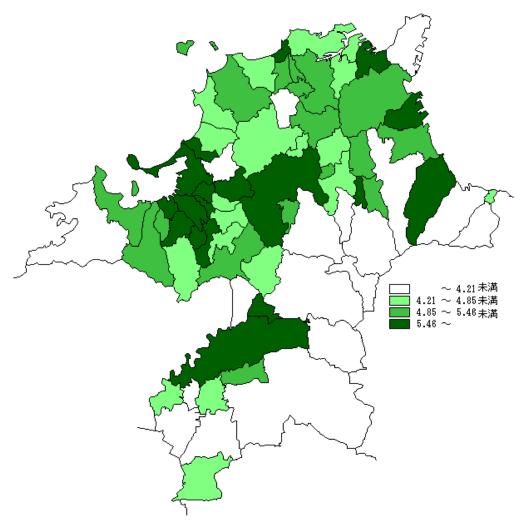


図 5.1 市区町村別にみた婚姻率(人口千対)(平成 27 年・福岡県)

6 離 婚

離婚件数及び離婚率の推移を第 6.1 表に示す。平成 27 年の本県の離婚件数は 10,063 組、離婚率は 1.99 だった。

第6.1表 離婚件数・離婚率 (人口千対) の推移

年次	福岡	県	全 国		年次	福岡	県	全	玉
中 扒	離婚件数	離婚率	離婚件数	離婚率	中 扒	離婚件数	離婚率	離婚件数	離婚率
昭和22年	3, 918	1.23	79, 551	1.02	〃 17年	11, 567	2.31	261, 917	2.08
〃 25年	4,402	1.25	83, 689	1.01	〃 18年	11, 291	2.25	257, 475	2.04
〃 30年	4, 336	1.12	75, 267	0.84	〃 19年	11, 115	2.22	254, 832	2.02
〃 35年	3,971	0.99	69, 410	0.74	〃 20年	11,037	2.20	251, 136	1. 99
〃 40年	4, 113	1.04	77, 195	0.79	〃 21年	11, 121	2.22	253, 353	2.01
〃 45年	4,879	1.22	95, 937	0.93	〃 22年	10, 952	2.18	251, 378	1. 99
〃 50年	5, 655	1.33	119, 135	1.07	〃 23年	10,653	2.11	235, 719	1.87
〃 55年	7, 156	1.57	141,689	1.22	〃 24年	10, 541	2.09	235, 406	1.87
〃 60年	8,918	1.88	166, 640	1.39	〃 25年	10, 290	2.04	231, 383	1.84
平成 2年	7,699	1.61	157,608	1.28	〃 26年	9, 981	1.98	222, 107	1.77
〃 7年	9,064	1.85	199, 016	1.60	〃 27年	10,063	1.99	226, 215	1.81
〃 12年	12,053	2.42	264, 246	2.10					

注:昭和48年以降の全国の数値は沖縄県を含む。

平成 27 年の本県の市区町村別にみた離婚率を図 6.1 に示す。最も低かったのは東峰村の 0.00、次いでみやこ町の 1.39、八女市の 1.39、小郡市の 1.46、みやま市の 1.50 の順だった。

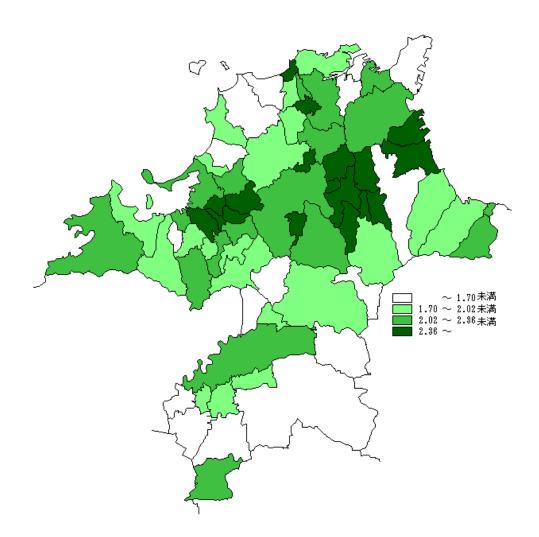


図 6.1 市区町村別にみた離婚率 (人口千対) (平成 27年・福岡県)